

ガーデンシティふかや推進室 [ふかや緑の王国・深谷市櫛引24-2(花植木流通センター隣)] ☎551-5551

花を愛し、人を愛し、地域を愛するまちづくり!!

市内の公共花壇が春に向けた装いに！

市民ガーデニングボランティアが維持管理している公共花壇(JR深谷駅北口ステーションガーデン、深谷駅通り、国道17号沿い)で、春に向けパンジーやノースポールなどの花苗や、市の花であるチューリップの球根などを植え込みました。

JR深谷駅北口ステーションガーデンでは、地元の深谷小学校4年生の皆さんが植え込み作業をお手伝いしてくれました。近くにお出かけの際は、ぜひご覧ください。



▲JR深谷駅北口ステーションガーデンで花植えをしている深谷小学校4年生の皆さん



▲深谷駅通りで花植えをしている様子



▲国道17号で花植えをしている様子



▲深谷駅通りで花植えをしている様子

JAPAN BIRD HOUSE

ジャパンバードハウスコンテスト

第16回ジャパンバードハウスコンテスト2024 鳥の審査の部
第17回ジャパンバードハウスコンテスト2025
結果発表 ※敬称略

2024『鳥の審査の部』

最優秀賞

さいとう しゅな
齊藤 珠花『すばこ』

優秀賞(一般)

かわかみ か のん
河上 花音『きょうりゅう』

優秀賞(小学生以下)

ね ぎし かなえ
根岸 奏瑛『安心の家』

特別賞

た ばた なつ は
田端 夏波『大工になりたいお姉ちゃん』

た ばた なつ ひ
田端 夏陽『2つで1つの とりのおうち』

おおさわ しょうた
大澤 翔太『森の音楽会』

2025

最優秀賞

た ばた たかゆき
田端 孝之
『たけとりものがたり』

優秀賞(一般)

なかもら ひろ み
中村 宏美
『ネイチャー ハウス
『nature house』



優秀賞(小学生以下)

た ばた なつ は
田端 夏波
『入り口はどこでしょう』



特別賞



おの でのら よしひこ
小野寺 良彦
『(森の番人) 森の番屋』



ともたけ ゆいひろ
友竹 結大
『ミノムシハウス』



ともたけ 友竹
友竹 あすき
『小鳥さんのおうち』

第16回ジャパンバードハウスコンテスト2024『鳥の審査の部』への応募作品および第17回ジャパンバードハウスコンテスト2025への応募作品の中から、それぞれ入賞作品が決定しました。なお、応募作品は『ふかや緑の王国』で展示していますので、ぜひお越しください。

深谷駅北口ステーションガーデンのイルミネーション点灯中！

令和8年1月8日(木)まで点灯中です。ぜひご覧ください。
点灯時間 日没～JR高崎線の終電

第16回ふかや緑の王国写真コンテスト

令和7年中にふかや緑の王国の敷地内で撮影された作品を募集中です。
締め切り 令和8年1月6日(火)必着

休園情報

ふかや緑の王国は、年末年始(12月29日(月)から令和8年1月3日(土))は休園します。

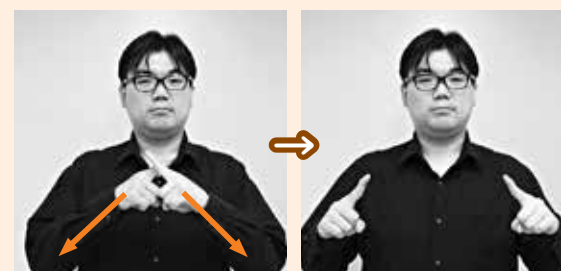


手話deおはなし



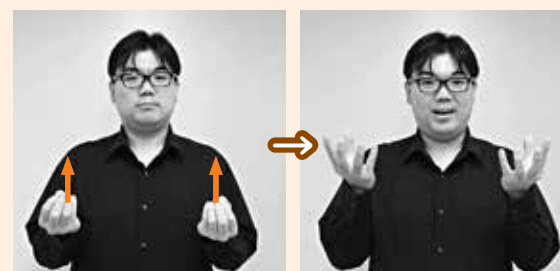
手話に興味はあるけど難しそう…そんなかたも、身近なところからチャレンジしてみよう！
(手話協力 深谷市聴覚障害福祉協会)

クリスマス



人さし指で『×(バツ)』の印を作り、左右斜め下へすっと引き下ろす。

おめでとう



指を上に向けてつまんだ両手のすべての指を上へ上げながら、笑顔でぱっと開く。

図障害福祉課 ☎571-1011・FAX 574-6667

中瀬河岸場は、江戸時代に武蔵国と上野国を結ぶ利根川の船着き場として栄えました。その始まりは、1607(慶長12)年江戸城の修築のために、中瀬から栗石を輸送したことからいわれています。

その後、1787(天明3)年の浅間山大噴火により、火山性泥流が中瀬まで押し寄せ、利根川上流の川床が盛り上がったため、中瀬で小舟から大舟への乗り換えや積み荷の積み替えが行われ、上州との渡船場でもあったことから、『川の関所』としての役割を担っていました。また、中瀬から江戸への『下り』は通常3日位を要し、江戸からの『上り』は15日から天候

中瀬河岸場



によって20日ほどを要しました。

中瀬河岸場が大いににぎわったのは、幕末から1884(明治17)年の高崎線開業までで、1875(明治8)年には、船の数が高瀬船18艘をはじめ、合計101艘ありました。河岸場の道沿いには旅館や料理屋、居酒屋、お茶屋などが立ち並び、風呂屋、酒屋、菓子屋、魚屋、鍛冶屋、医者も開業し、さらに、2軒の廻船問屋もありました。取り扱った荷は、年貢米、小麦、葉藍、藍玉、蚕種、桑苗、肥料、干鰯、清酒、塩、醤油、酢、砂糖、味噌などで、活発な物流で地元の産業が栄えました。

そのにぎわいの中で栄一は、1863(文久3)年に尊王攘夷の企てをした際、江戸で買い求めた武器を密かに中瀬に陸揚げしました。また、1869(明治2)年には、妻千代と長女歌子はフランスから帰国した栄一からの手紙をもらい、中瀬河岸場から船に乗り、東京で栄一と落ち合いました。



▲川岸の街並み

写真出典:『中瀬名所写真帖』より